

## 平成 24 年 8 月 9 日 拡大企画部会議（午前の部）議事概要

- ・ 森田@企画部より資料 3, 4 に基づいて現行計画や見直し計画の現状について以下の説明が行われた。
  - 現計画のレビューと、計画の見直し（建議）に至る経緯について説明。
  - 2 月の科学技術学術審議会総会で見直し建議が審議経過報告となった。広く社会に意見を聞くべきとのコメントがあったため、5 月に意見公募（パブコメ）と関連学協会への意見集約を実施。それを取りまとめて、8 月の総会に備えた。しかし、「国際レビューをすべきである」との意見が直前に出て、8 月の総会では再度審議経過報告（建議されない状況）となった。
  - 科学技術・学術審議会による「東日本大震災を踏まえた今後の科学技術・学術政策の在り方について（中間まとめ）（案）」（資料 4）について解説。
    - ◇ 「地震研究の抜本的見直し」が謳われている。被害の深刻化を招いた原因として「現状の地震学の実力を過信し、日本海溝軸付近で発生する地震がマグニチュード 9 に達する可能性を評価する取り組みが不足していたこと」という表現となっている（実力を過信と言う箇所が正しくない表現なので修正を提案中）。
    - ◇ また、上記の点を受けて、「研究手法や研究体制を抜本的に見直す必要がある」と指摘されている。全体の論調として、「科学は社会の要請に応える必要がある」ことが強調されている。
    - ◇ 建議を作る際には、こういった指摘を無視できない。
- ・ 続いて上記に関する質疑応答が行われた
  - 科学技術学術審議会の意向は学者側からのものか、行政側からのものか？
    - ◇ 行政が下書きし、学者側が意見を述べて、作成する。会長からは、「地震予知ムラだけでなく、広く意見を聞くように」という発言がなされている。
    - ◇ 会長は学者の顔と行政官の顔の 2 つの顔がある。
  - 資料 4 で言わんとしていることは「長期予測の精度を上げろ」ということか？
    - ◇ それだけではない。全体を通してみると、社会の要請に応えることが求められている。2 月の総会で審議経過報告を行ったときには、世の中の意見を聞いていないという指摘を受けて、パブコメを実施した経緯がある。長期予測の精度も上げることも社会に要請に応えることのひとつであるが、それ以外のこともあるのではないか。
  - 兵庫県南部地震後には、行政の情報収集能力やそれを政策に活かす機能が弱いという指摘があったが、今回はどうか？
    - ◇ 文科省は科学技術に対して国民が不信感を抱くようになったことに危機感を持っている。地震研究もそのような状況を作り出した張本人のひとりとみなされている。研究手法、体制の抜本的見直しが必要と言われている。しかし、文章からはどの段階までが抜本的見直しが求められている範囲か良く判らない。現行計画だけでなく、地震本部の施策、あるいは東大地震研究所が含まれるかもしれない。現段階でははっきりしない。
  - 地震本部の情報収集体制に問題があったのでは？
    - ◇ 意見として伺っておきたい。
  - （コメント）「地震研究において、人文社会科学を含めた幅広い分野の知見を統合した研究が不足していた」と指摘されており、世間一般がそのように見ているということ。
  - 上記の指摘は、長期予測のことを言っているのか？ そうであれば、統合した研究をやればよいので

は？

◇ その可能性はある。

- 文科省の中枢が大変厳しい状況であると考えており、我々は自覚する必要がある。
- 津波堆積物の調査研究は、地震本部がやるべきことではないか？そういった研究を本計画で実施する前に、それが一線の研究として成り立つものか、活断層のようにコンサルに任せてできるものなのか、はっきりさせる必要がある。

◇ 地震の調査や研究の中で大学の研究者がすべきことは何か、地震本部がやることは何か、それを仕分けする必要がある。これができるのは、ここに集まった地震研究者のみなさんである。それらを総合して全体をみわたした計画を考えていくことが重要である。

- 審議会は、課題解決のためには基礎研究段階においても政策誘導が必要であり、論文にならないようなものも奨励し、成果最大化のための研究体制をとり、自然科学と人文・社会科学の連携を促進する必要があると考えている。我々の研究計画もそのようなことが求められている。
- 予知研究は基礎研究ではなく、応用研究であるという位置づけか？

◇ 最近では、基礎、応用、開発研究の3種類に分けられ、さらに前記各研究が学術研究、課題解決型研究、要請研究に分けられている。予知研究は基礎研究でかつ課題解決型研究であると思う。

- レビューの外部評価について、第1回は6月12日、第2回目は8月2日、今後、8月下旬、9月下旬（最終）の4回開催される予定。外部評価委員会では、予知研究は地震・火山災害の多い我が国においては重要な研究であるという認識がなされている。評価はきちり行う。結果については不明。

- ・ 三浦@企画部より資料2に基づいて **yoti-future** メーリングリストで行われた議論の概要について説明が行われた（内容省略）。

- 抜本的な見直しが必要ということであれば、予知研究だけでなく、地震本部が何をすべきかも含めて建議を策定すべき。そうすることで、予知研究が受けている批判を解消することもできる。そこを固めた上で議論をすべき。

◇ 地震本部は大臣直属であるため、法律を変えない限りこちらから意見を述べることは不可能。

- 建議を策定することを1～2年遅らせて、地震科学研究のあるべき姿をじっくり議論してはどうか？

◇ 建議は5年ごとに切れ目なく策定してきた。大きな被害を出す地震があると、すぐに計画の見直しを行ってきた。ここで一度休んだら二度と出せなくなる可能性が高いと思われる。

- 文科省の方針と整合させることを考えることが重要。方法は複数あるかもしれない。
- 審議会会長は、予知研究の何が失敗だったかはわからないが、失敗したことだけはわかっている。反省するのを待っている。我々は、サイエンスとして答えを出すことが重要。
- 建議を通すという前提で議論するならば、通るという見通しの有無について企画部の見解を聞きたい。

- 見通しはかなり厳しいが、努力すべきだと認識している。次期計画を科学技術・学術審議会総会の審議を経て、建議することが最善であるが、それよりも権威がない測地学分科会の研究計画として、総会に報告するという手段もある。しかし、予算の裏付けは相当弱くなるであろう。

- 地震本部がある地震予知研究と、それに相当するものがない噴火予知研究とでは、種々の面で違いがある。次期の研究計画が建議となるか、測地学分科会の研究計画となるかは、国民が決めるので

あって、研究者の都合で決められるものではない。どちらにしても、具体的なサイエンスプランを策定するWGを起ち上げることが急務。

- 国の防災については中央防災会議、地震の調査研究については地震本部、基礎研究は予知研究が担っている。建議は地震本部で位置づけられていることで生きながらえていることを自覚すべき。震災以来、社会への貢献をせよ、という圧力はあるが、本来、予知研究で行う基礎研究が中防や地震本部の施策に役立てられることで社会貢献しているはず。社会との関わりが今以上深くなることを避けたいのであれば、地震本部の施策の中に積極的に位置づけて貰うしかない。責任を伴うことにもなることを自覚すべき。

- この会議では、次の建議を出すことについて合意が得られた。万一、建議が出せなかった場合にはどうなるか？

◇ とにかく研究計画を策定し、測地学分科会から科学技術学術審議会に報告することで、建議ほどではないにしろ全国の研究者コミュニティの研究計画と位置付けられる。研究経費は減額されるかもしれない。しかし、この分野の研究を推進するために重要な全国連携の体制が維持できる。いずれにしろ科学の中身の議論が重要。

- 若手としては、地震発生の物理に関する研究を通じて社会貢献をしていきたい。建議は必要。
- このコミュニティ以外に、地震や火山噴火予測に関する研究をできるグループはないのだから、その結果に関わらず、研究計画は作るべき。建議になるか、単なる研究計画になるかは研究者の都合で決められない。国民（国民の代表である国会、その意を汲んだ行政）が決めるものである。

- 噴火予知だけでも生き残る道は？

◇ 地震+噴火予知だけでも難しいのに、単独では無理であろうと思う。

- これまでの議論や、意見分布の違い、「社会の要請に応える」と言うときの視点の違いなどを考慮すると、サイエンスの中身を早急に議論するため、サイエンスプランは地震と火山で分かれて議論することを提案したい。最終的には一体となった計画にする方針。時間も限られているので効率的に議論を進めたい。午後は分かれてサイエンスプランの議論を始めたい。

- 地震及び火山WGのメンバーについては、それぞれ10人前後が望ましい。それぞれ10月下旬までに、次期計画のサイエンスプランを固める必要がある。このような議論の後、WGの構成は以下の通りとなった。

#### 【地震WG】

高橋浩晃（北大）、日野亮太（東北大）、西村卓也（地理院）、小泉尚嗣・宍倉正展（産総研）、加藤愛太郎・加藤尚之・中谷正生・三宅弘恵（地震研）、堀 高峰（JAMSTEC）、田所敬一（名大）、宮澤理稔（京大）、松本 聡（九大）

#### 【火山WG】

中川光弘・橋本武志（北大）、西村太志（東北大）、大湊隆雄（地震研）、野上健治（東工大）、大倉敬宏（京大理）、井口正人（京大）

下線は世話人